



Melting Point ー茶の湯とアート、即興舞ー

会期 2012年6月16日ー30日

日、月 休廊 (6/24 はイベントのため予約制) 14:00~20:00

オープニングレセプション 6月16日(土) 18:00-20:00

at Gallery YUKI-SIS

東京都台東区柳橋 2-22-13 東京プラスチック会館 1F 03-5809-3665

info@yuki-sis.com http:yuki-sis.com

出品予定作家(敬称略)

湯浅克俊(木版)、川崎広平(立体)、田口健太(写真)、桃田有加里(油彩)、平野果林(ドローイング)

YAO Chung-Han(映像)、KUO I-Chen(映像)、Wang Ding-Yeh(映像)

近藤俊太郎(茶人)、Marga JO(即興舞) 他

協力: Standing Pine Cube(名古屋), AKI Gallery(台北), Agora Art Space(台北),

イベント

6月23日(土) 20:00~ 即興舞踊公演(Marga JO) 予約制 定員20名 1ドリンク付 1,500円

6月24日(日) 茶会(茶人 近藤俊太郎) 予約制 各回定員6名 ¥2,500

12:00~、13:00~、14:00~、15:00~

お電話かメールにてご予約を承ります。

03-5809-3665 info@yuki-sis.com



湯浅克俊

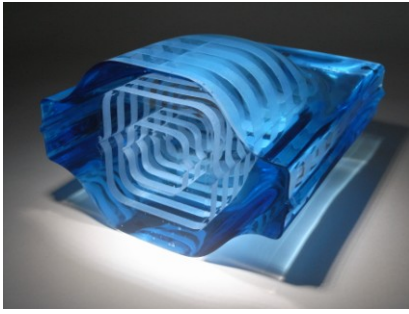
Signs of a story #3

60 x 40cm

2011

手彩色紙に木版水性摺り

Gallery YUKI-SIS では、6月16日(土)より、Melting Pointー茶の湯とアート、即興舞ーを開催致します。



川崎広平
無題 -Untitled
15×18×10
Acrylic, Oil, LED 2010

展覧会コンセプト

茶道とアート、即興舞踊。これらは現代において一見まったく異なる世界のものに見えます。

茶道においては主客の一体感を旨とし、茶碗に始まる茶道具や茶室の床の間にかける掛け物は個々の美術品である以上に全体を構成する要素として一体となり、茶事として進行するその時間自体が総合芸術とされます。茶室の空間総合芸術には、亭主が客人をもてなすためにどのような心配りをするか、ひとつひとつに意味があり、いくつもの謎解きが隠されています。

参加する客人と亭主の「茶」を通じての対話、呼吸、そして空間づくりの真意は、アートにおいても同じことが言えるのではないのでしょうか？

今回参加するアーティストの作品は、見るものをまるで瞑想の世界に連れていくような奥深さをもっています。

その奥に隠された作家の「意識」を感じるにつれ、今まで表面化されなかった心の中の残響音、残像を、見るものに思い起こさせてくれる作品です。

即興舞踊は、その空間の様相と客の存在や呼吸さえも含めた瞬間の出来事によって進行します。舞踊者は客と共有する一期一会の場に、時空を超えたつながりを見出し、無になることで舞として実現します。それは、宇宙とつながるような世界を見るものを感じさせてくれます。

今回の展覧会では、アート、即興舞、茶道、そして参加する方との融合点 -Melting Point- を探る展覧会です。

それぞれのジャンルに興味がある方が、Melting Point を感じることで、他のジャンルにも興味を持っていただけるようなイベントを用意したいと思っています。



田口健太
気配の肖像 no.28 10-4
2012年 530mm×428mm
ゼラチンシルバープリント



桃田有加里
room
2011・oil on panel, Japanese paper,
chalk ground・53.0×65.2(mm)



裏千家 茶人 近藤俊太郎 (アバンギャルド茶会主宰)

初めの頃は、“面白いことやるなら変な名前のほうがいいかなあ？” ……なんて思っていました。でも最近は、“現代の人たちが楽しめる茶道を提供したいなあ” と思っています。

千利休が500年前に、誰も考えられなかったアバンギャルドな茶の湯を作り出してから、実は誰も壊せずに行ったり来たりしていただけたような気がして…。

しかし、千利休も戦国時代という時代背景に則そうとして、あのような形に変えていったのだと思います。だから僕も、今と言う時代にあった茶の湯にしたい！

決して、過去を否定してぶっ壊すのではなく、過去を受け入れ、それを素地としながら、改変して行く作業だと思っています。

現代風に言えば『芸術プロデューサー』といったところ。

必要があれば、誰か、何かとコラボレーションすることも、臆せずに挑戦していこうと思っています。

次々と訪れる新しいステージで、それまでの自分の想像を超えるようなことをし続けたい！

…そして、冷静に周りを見渡したときに、まだまだ甘いなあとも痛感させられつつ、前進していきます。



Marga JO(即興舞)

即興舞（完全即興による身体表現）、即興セッション、即興コラボアート（音楽家、写真家、ヴォイス、ライブペインティング、メディアアート等との共演）を20年近く続ける。

長年舞い続けている日本の伝統舞「能」とコンテンポラリー舞踊の融合。彼女の舞踊は、光と闇の世界を静かに宇宙と繋がるように広げていく。もともと彫刻家でもある彼女は、即興舞のほか、舞台照明美術、空間芸術、また身体表現のワークショップなども主宰。

空間を「共有」する人々がいてこそ、「場」が実現し、「舞」が成り立ちます。

茶道の所作が、客へのおもてなしのころから実現するのと その意味では、同じだと思います。

だからたぶん、《即興表現》を20年近くやってきた経験として

最初から最後まで、「茶道」の有り様は、私にとって身近なんです。

